代表取締役社長 グループCEO
鳥取三津子



小さなひとつから、未来の空へ

今日もＪＡＬグループの翼をお選びいただき、ありがとうございます。

11月を迎え、街を吹き抜ける風に初冬の気配を感じる季節となりました。上空から見下ろす景色も少しずつ冬の装いへと衣替えを始めているかと思います。

最近、街なかや社内で若い世代の方々を見ていると、ふと気付くことがあります。彼らはエコバッグを当たり前のように持ち歩き、ごく自然にシンプルで無駄のない選択をしています。「環境のために」と肩ひじを張るのではなく、環境への配慮がごく自然な「当たり前の日常」として彼らの中に溶け込んでいるように思うのです。そんな姿に、清々しい頼もしさも覚えます。

私自身はといえば、マイボトルを持ち歩き、エコバッグをそっと鞄に忍ばせることはもちろん、地産地消を意識し、食品廃棄を減らすために食材を使い切れる分だけ手前から選ぶこと。あるいは、手洗いや歯磨きの際にこまめに水を止めることなど。一見するとごくささやかな営みかもしれませんが、どんなに小さなことでも、それを日々の習慣としてなるべく大切にしています。そうした一人一人が今この手でできる優しさを形にしていくことが、未来を丁寧に紡いでいくための、最も大切で確かな一歩なのだと私は信じています。

この一人一人の想いや歩みと同じように、私たちＪＡＬグループも「サステナブルでウェルビーイングな未来」に向け、できることをひとつずつ進めています。２０２７年３月に開幕する「２０２７年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」では、「花や緑との関わりを通じ、自然と共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造を提案する」という開催意義に賛同し、「小さなひとつから、未来の空へ」というテーマを掲げて共に歩んでまいります。この想いを乗せて今月からは、公式マスコットキャラクターが愛らしく描かれた特別塗装機『ＪＡＬトゥンクトゥンクＪＥＴ』が日本の空を駆け巡り、開催に向けた賑わいをお届けしてまいります。また、会場ボランティアの皆さまへの接遇研修のサポートや、持続可能な航空燃料（ＳＡＦ）の活用促進など、さまざまな挑戦に真摯に向き合ってまいります。

人と自然が優しく寄り添う未来へ。会場で、そして空の上で、皆さまと共に新しい明日の可能性を感じられることを楽しみにしています。

次回のご搭乗も心よりお待ちしています。

イラスト／山本祐布子



とっとり みつこ／１９６４年、福岡県久留米市生まれ。１９８５年４月入社（客室乗務職）。２０１９年に客室安全推進部長、２０２０年に執行役員 客室本部長、２０２２年に常務執行役員 客室本部長、２０２３年に専務執行役員 カスタマー・エクスペリエンス本部長に就任。同年６月に代表取締役専務執行役員、グループＣＣＯに就任し、翌２０２４年４月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。